

<編集後記>

二年続けて予定よりも遅れての刊行となりましたが、ようやく、初年次教育学会誌を皆様の御手許にお届けすることができました。

本巻では2017年9月に中部大学で開催されました第10回大会での大会企画シンポジウムにおける基調講演と4名の方の御報告、および課題研究シンポジウムの概要を掲載しております。大会企画シンポジウムは「初年次教育と学生コミュニティ—授業内外で育む学びの成長—」をテーマとして多様な側面からの御報告が続きました。第1部の基調講演は筑波大学の土井隆義先生に、御専門の観点から学生のコミュニティ意識、仲間意識の大きな変化を具体的にご説明いただきました。第2部の実践報告では、ピア・サポート・トレーニングという観点から山口権治先生、学生寮の活用という観点から小崎文恵先生、学部生リーダーTAの活用という観点から秦喜美恵先生、そしてLTD基盤型授業モデルを踏まえた御報告を安永悟先生から頂戴しました。本巻では御報告の概要を掲載しております。

また課題研究シンポジウムでは「3つのポリシーと初年次教育」をテーマとして、2017年度に実施した学会会員対象調査の結果も紹介しつつ、山田礼子先生、井下千以子先生、および濱名篤先生の御報告を論文にまとめていただいております。

学会誌の使命は会員の研究成果を発信することにあります。本巻では、研究論文について4件、事例研究論文について8件の投稿がございました。多くの会員の皆様にも査読にご協力いただき、厳正な査読の結果、研究論文については1件、事例研究論文については2件の論文を掲載することができました。残念ながら掲載に至らなかった論文につきましても、査読者のそれぞれの観点から、論文内容や構成の改善につながる意見を頂戴し、ご執筆の方々にお伝えしております。こうした意見をご参考にしていただき、今後の研究や論文執筆に活かしていただけますと幸いです。また、査読にご協力いただきました先生方、お一人お一人のお名前は公表していませんが、詳細にご検討いただき、有益な御意見を頂戴しましたこと、改めて深く御礼申し上げます。

あわせて本巻では、自著紹介を4件掲載することができました。学会会員の研究・実践の成果がこのような形で共有され、研究も実践もさらに深まっていくことが期待されます。次号以降でもぜひ自著紹介をご投稿ください。お待ちしております。

二年続けて編集作業に遅延が生じたことにつきましては、今後編集委員会内で編集作業の在り方等を再検討し、次号以後の円滑な編集作業につなげていくよう作業の明確化を進めることにしております。また編集の過程で明らかとなったいくつかの課題につきましても、編集委員会や理事会での議論を通じて、改善に努めたく存じます。改めて、編集作業が遅れ会員の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫びいたします。

学会誌編集委員会を代表して 沖 清豪